龍神
村野守美

バフバフ
カンカン
カンカン
キン
キン
キン

バフバフ

ゴビゴビ

カン
カン
カン
カン
カン
ヤン
ヤン
プハー

ケン
ケン
ケン
フン

ゴロロロロロロロウ、、

カン
カカン
カ
カ
カン
カン
カン
ガッガッ
フン
ゴゴゴ
!?

さっきから
うさん
くさい男が
盗み見を
している
様子だが

フン

ええ
いくら
追いはらって
も動こうと
しないんです

わしの
趣向や彫方は
誰にも見られ
たくない
すくなくとも
金剛力士が
出き上るまでは

どうやら
あの男
快慶の友方の
様子なのです
快慶の友
……!?

フン

……
あやつか
快慶を
呼んで
おくれ…

フン
ちゃんちゃら
おかしいや…
なんでえ
なんでえ

こら
仕事の
邪魔だぞ
おまえ
シッ
あやつと
口をきくな
破門になるぞ

快慶!!
おまえは
変なところで
この運慶に
たてつくんだね

な
なんでしょう
たてつくだ
などと
おだやかでは
ありません
たてついて
いないのなら
わしが当の昔に
破門にした者と
なぜ今も
付き合いを
するのだい……

ほら
あやつだ

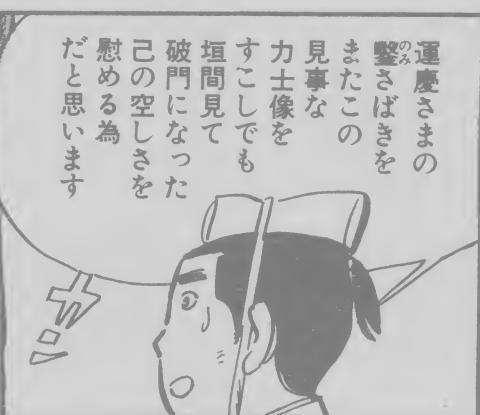
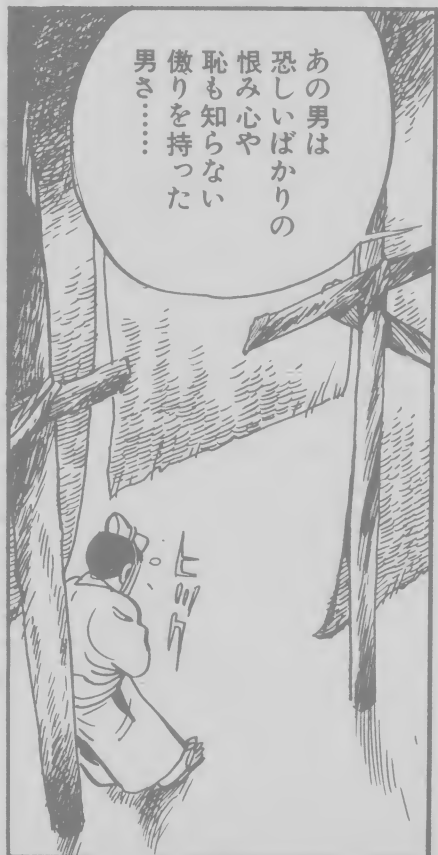
おまえが
あやつを
かばいだて
などするから
ああやって
臆面もなく
この仏所へ
入り込んで
くるのだよ

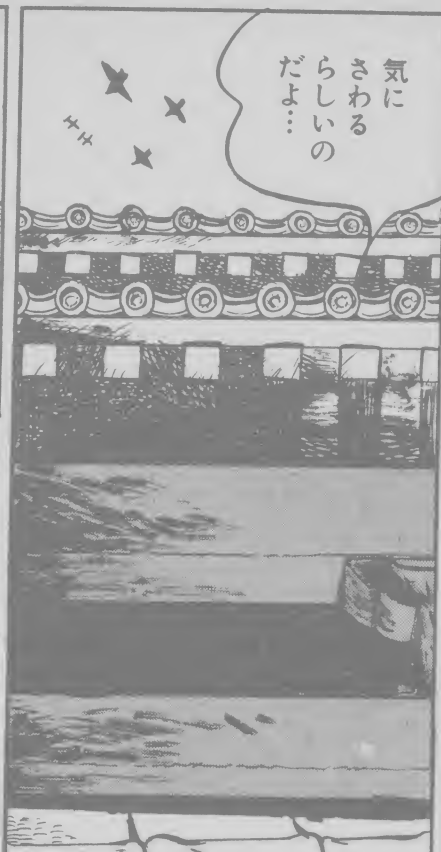
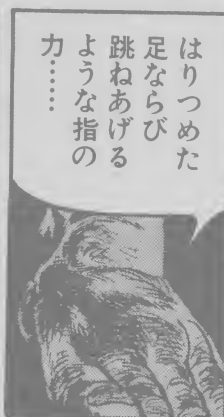
常慶……

あの男は
もう慶派の
ものではない
常助でいいの
だ……

どうやら
当世風の
八寸角材
組木造りを
盗み取ろうと
しているに違い
ない……

運慶さま
あの常助に
限ってそんな
姑息な思惑で
来ているのでは
ないと思います

……

運慶さまの
鑿さばきを
またこの
見事な
力士像を
すこしでも
垣間見て
破門になった
己の空しさを
慰める為
だと思います
フンあの男
それほどに
いじらしい
心根のある
奴じゃあない
あたしは
ちゃんと
承知だ

あの男は
恐しいばかりの
恨み心や
恥も知らない
傲りを持った
男さ……

それが
見てとれる
から
あたしは
破門に
したんだよ
追い払って
おくれ
気に障って
いけない
はい
常慶……
……
わかって
いるさ…
運慶の
野郎…
俺を邪魔に
してるん
だろ……

気にさわるらしいのだよ…
ハハハそりゃそうさ…こうやって何十日も工作業を睨みすえてやれば流石の運慶だって気になるだろよ

それを知っていてあんたは…
よく見ろよ快慶あの様式を

はりつめた足ならびような指の跳ねあげるような指の力……

目玉に水晶を入れてよ…

ありゃ誰の様式だい快慶

………

答えられねえだろう…
快慶あんたが一番よく知ってるはずさ…

みんな この俺が あみ出した 姿形じゃあ ねえか…
あの 念怒相こそ この俺が 下絵でひいた 図柄じゃ ねえか

それを どうだい 運慶の クソ野郎…
そんな 言い方は よくない あんたが すさんで 見えるよ

どうとでも 見ろ
グビッ

運慶は 俺の下絵を 見て…… 肝をつぶした
生き生きとした 姿形を見て うなった…
そして 俺を破門して 俺の図柄や 考えを盗んだ

………
快慶 あんたは 知ってる はずだ…

運慶さまは 七条仏所を ひきいて いかねば ならない 重い荷のある 方だ……

力でねじふせられるくやしさがあんたにわかるか

……

快慶!!

はいただいま…

常慶
すくなくとも
あたしは
あんなものを
盗んだり
しないよ…

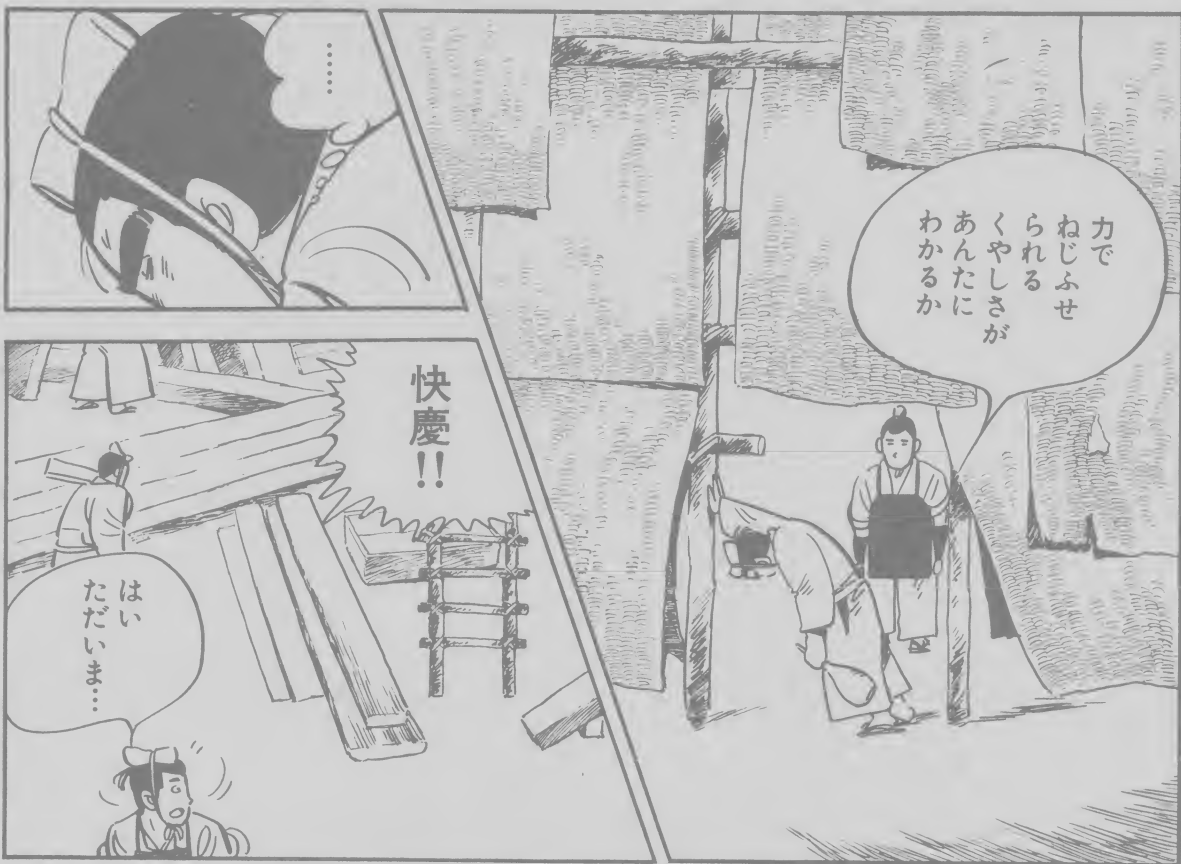
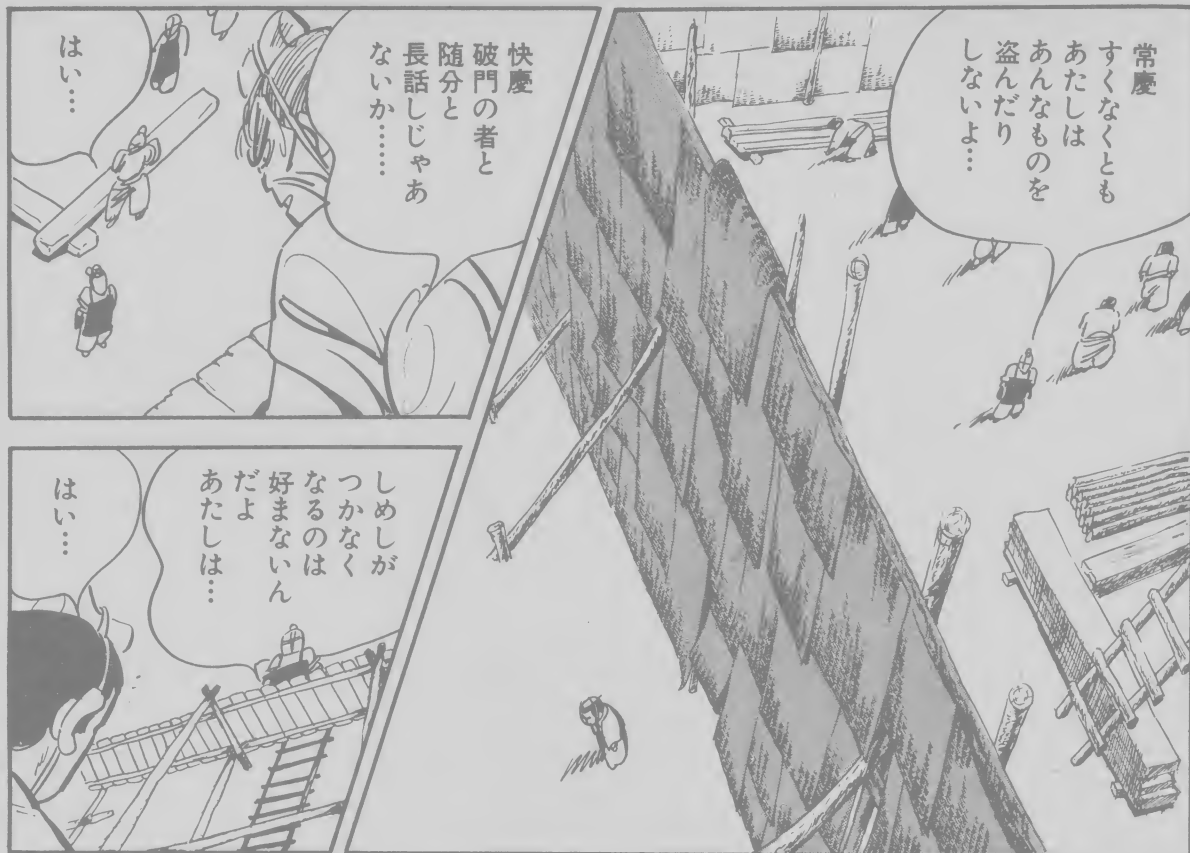
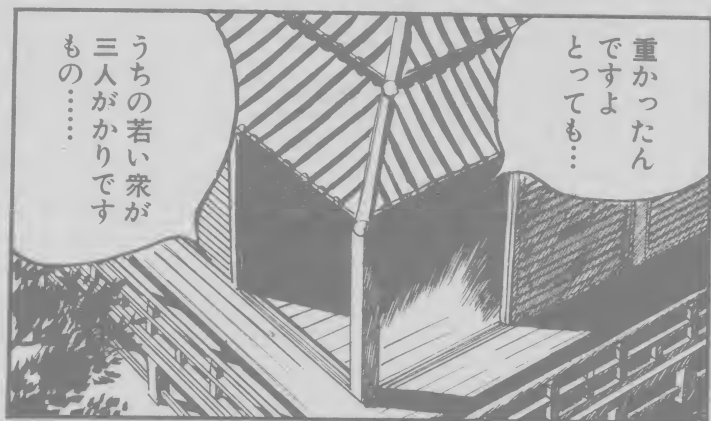
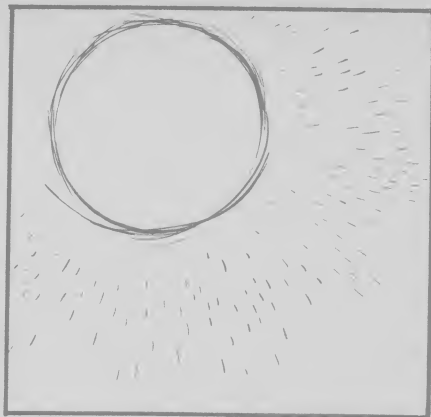
快慶
破門の者と
随分と
長話しじゃあ
ないか……

はい…

しめしが
つかなく
なるのは
好まないんだよ
あたしは…

はい…

ハハハ
今じゃ
小間物細工を
いじくり
まわしてる
だけだ…

どっ

重かったん
ですよ
とっても…
うちの若い衆が
三人がかりです
もの……

酔いつぶれ
たって
ことかい…
そうです
道のまん中で…
あんなふうに
していたら
牛車に
ひかれてしまい
ます…

いっそ
ひかれて
しまいたい
さ……

もう
捨て鉢な
言葉は
聞きたく
ありません…
じゃあ
かまわねえで
くれよ

ホントに
構うな
あんなやつ
グビグビ

プハァ

飲んだくれで
どこも使い主が
ないから
うちで小細工
ものを彫らして
いれば
ますます
増長する
ばかりだ……
どてっ
あの人が
世を拗ねて
いれば
いる程
何かして
差し上げたい
…………

因果な
男を好いて
しまったな……
娘や……

コク

なにっ
龍門を
造れだと……

はい……
我等が
宗門に
ふさわしい
ものを
三条に
造ってほしいの
です

フン
さしずめ
そこの親娘に
唆かされて
拝み倒され
そんなことを
言うのだろう

俺は
慶派を
破門になった
者だぞ……
お情けの
仕事なんぞ
いらねえや

ほほほ
これはまた
勢いの
ある方ですな

ものを造る者
はそのぐらいの
頑なさが
なくては
なります
まい……

第一
俺は
龍など
見たことない
見たことない
ものは
造れん

はてはて
龍は唐の
国より
ハハダ
コノオ

へっ
俺はこの目で
自分の目で
見たことない
ものは彫らんぞ

運慶なんぞの
造る力士だの
仁王なんざ
所詮人間の
姿に似せた
神格化でしか
ねえ……

人間は
毎日見れらあ
うんざりする
程な……
カハハハ

龍を
見ておいで
なさいませ

なぬ

龍は
おります……
龍を
その目に
見ておいでな
さい……
地の果て
までも
捜し求めな
され……

父はあなたを
追い払った
つもりです

フン
わかってるよ
適当な金で
いなくなって
くれれば
それでも
安くはない……

そして
くだらねえ
櫛だの
文箱の飾りの
細工をやれって
のか……

いいでは
ありませんか

あたしは
あなたの
傍で
あたし達の
わらべに
乳をやり
ます……

オエエ

そして
運慶を
へこまして
やるぞ

近くの
魚村で
御酒を手に
入れました…

この
へっぽこ女
男をダメに
する
カマキリめ
くどいぞ…
なぜ
そんなに
俺をつけ
まわす……

わかりま
せん……

あなたが
なぜ
運慶に拘り
世を恨むのか
わからないと
同じです…

ハハハハ
やっと……
追い払ったぞ
バカ女め……
女などに
破門になった
男の無念が
わかってたまるか

龍など
どこにも
いるはずが
ない……

う

ドドドドド

ざぁ

ええ もんじゃのう 女性(にょしょう)は
まさに 水神滝を 登る女龍の ようじゃ……

フン あんなのが 龍なものか

龍など てんから いないと 思っている 疑いの 濁った目には そう見えない だろうよ……
いかれ坊主め 口ではなんと でもいえるわ…

ゴロロロ

ざあっ

くそっ
唐ものの
様式じゃあ
ねえ俺の龍を
造りてえんだ
ざんざ
ざんざ
趣向を
凝らした
世間をあっと
言わす様な

カカカ
そんな
雑心で
なにかが
造れるか
愚かもの…
破門に
なった
うらみの
意思返しで
身を焦がして
いるぞ
世間が
自分を
認めて
くれないと
いじけて
ねじくれて
いる
目の光だ

おそらく
運慶も
そこを
見たのだ…

あまりに
野放しな
荒い心を
うとんじた
のだよ
バーロー
そんなことで
何ができる
ごちゃ
ごちゃ
うるせえ…

あの
ひとを
いじめ
ないで…
好いて
おるのか
あんな
ケモノを…

はい…

哀れな
ものよなー
求めて
追えば
逃げ
拒めば
追われ
真に
ままならぬは
業火現世の
無常……

お坊さまも
どなたか
好いて
おられるの
ですね

うるへー
このこの…

………

パチ
パチパチ

こりゃ
満身羅漢
一切無に
なんなさい
うらみも
誇りも
塵より
軽いもの
なのだ…
ドドドウ

ドドドウ

?

そうすれば
心はときを放たれ
具像にまどわされずにものを見ることができる
超然とした精神を持てばいいのだ
ゴォォー

多分そうすればいいのだ…
そうすればこんな苦しみはなくなる
それができれば

ざっ

あっ
坊さま…
さよなら

わし…は
ダメだが…

おまえには

できる
か……
も……

ゴォオオオーッ
ヒッ
坊さま……
ヘヘヘ
ヒハハ
ヘッ
偉そうな
ことぬかしても
とどのつまりは
あのざまだ…
お
恐しいひと……
ハハハ
御自分の
顔を水に
写して
ごらんなさい
まし
おごり
狂った
龍を見ることが
できましょう
……
あたしなど
おそばに
よれぬぐらい
恐しいひと…
こら
艶
行くのか
はい
山を降ります

ゴオオー…
ざわわわ

ドドドドド

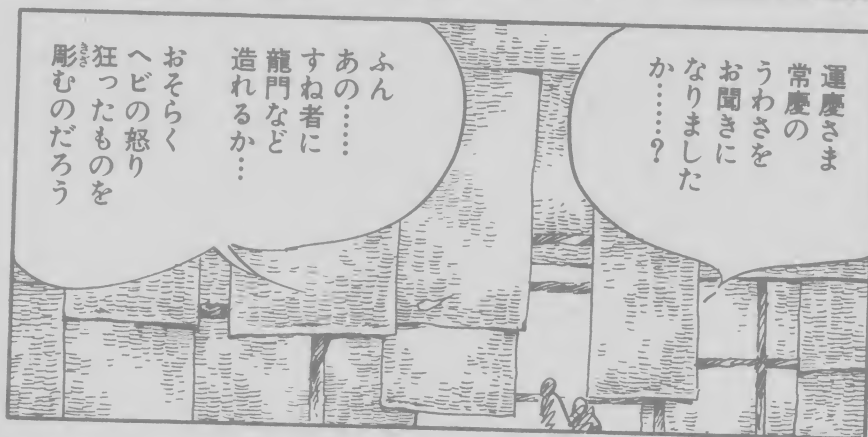
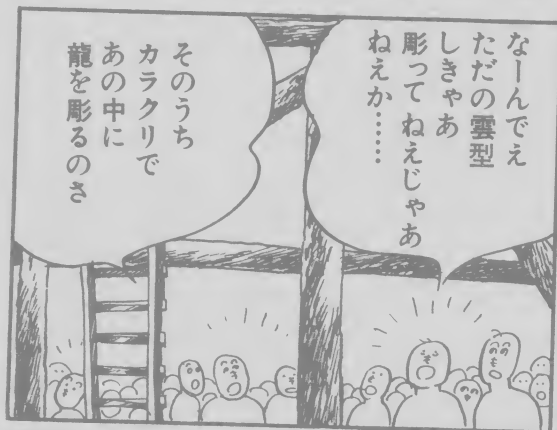
艶……

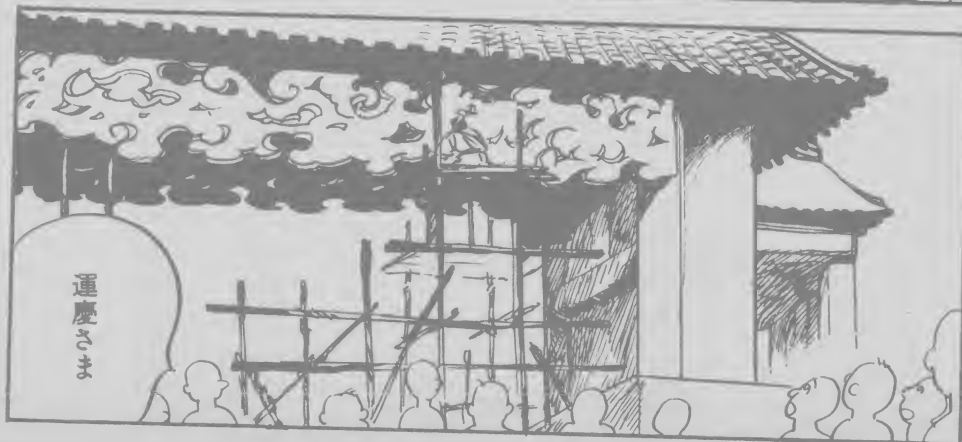
坊さん……
ドドドド…

寂しい……

ハハハ すっかり 運慶の ことは忘れて いた……
こんなに すがすがしい 惨めに なったのは 初めてだ…

う……
龍……

運慶さま
常慶の
うわさを
お聞きに
なりました
か……？
ふん
あの……
すね者に
龍門など
造れるか…
おそらく
ヘビの怒り
狂ったものを
彫むのだろう

カーン
カーン
カーン

なーんでえ
ただの雲型
しきゃあ
彫ってねえじゃあ
ねえか……
そのうち
カラクリで
あの中に
龍を彫るのさ

……

運慶さま

フン
カラクリか
際物(きわもの)め

山ごもり
などしたりして
俗人をたぶら
かす手だ…

ケン
ケン
ケン

常慶…
わたしは
今日も来て
しまったよ

カン
カン
ケン
ケン

なぜか
あんたが
仕事に
うちこんで
いると
嬉しいのだ

運慶さまと
同質の……

あんたは
わたしにない
情念の強さが
ある……

カン
カン
カン
ケン
ケン

………

今日も
うちこみ
なさって
おいでだ…

はい……
この頃では
口もきいて
下さいません

あのひとは
もう遠い
ところに
おいでの
ようです

お聞かせ下さいまし
なにかにうちこむは男だけのものでございましょうか
………
あなたには答えられますまい…
男なのですもの…
……
女にも一途な念があるのです…
ケ
ケ
楽しかった…………
あのひとと龍を捜すための道中は…
今のあなたはもうすね者でも酔いどれでもない
ケ
ケ
ケ
あたしを必要としていない…
あ
あの龍がにくい…

ケン
ケン
ケン
ケン

……

コン
コン
コン

ケン
ケン

ジャーン

ジャーン

ジャーン

ジャーン

ジャーン

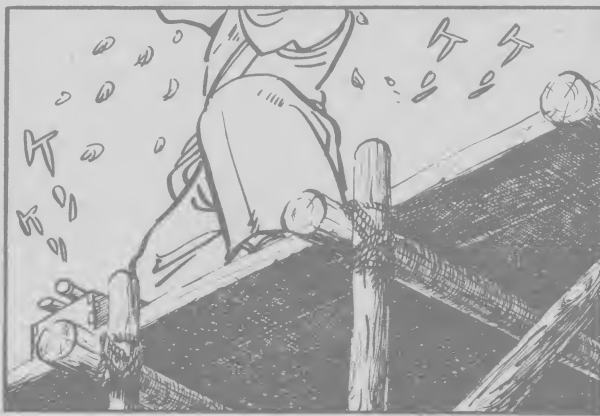
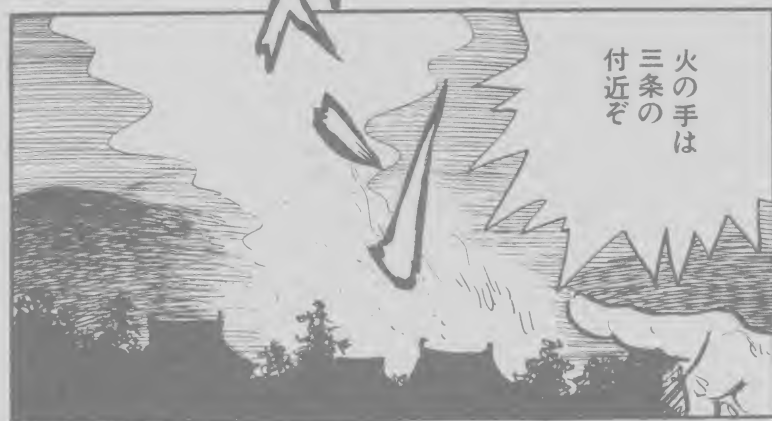
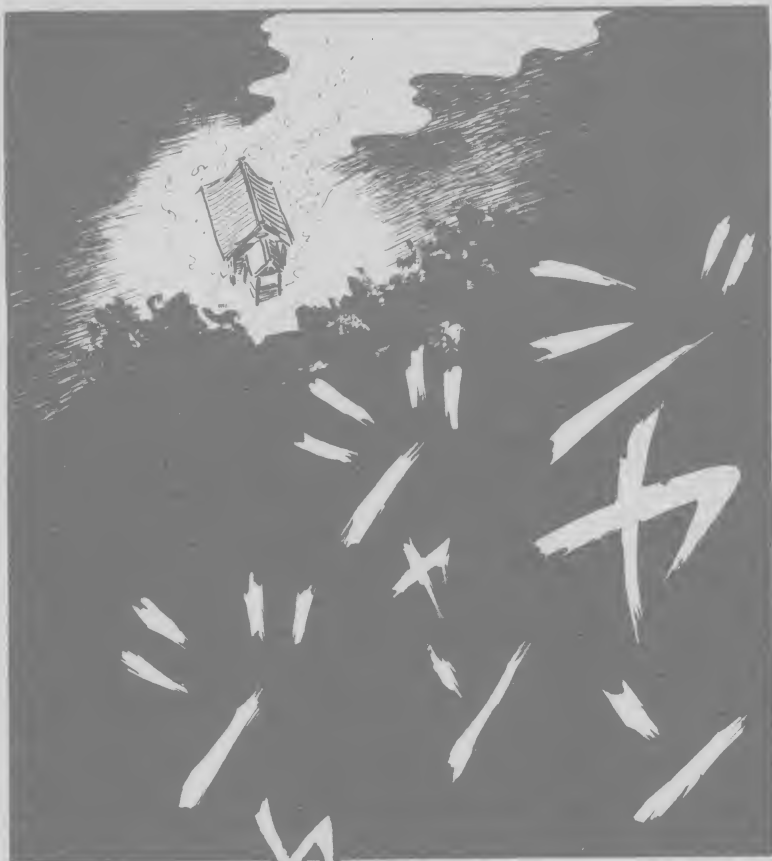
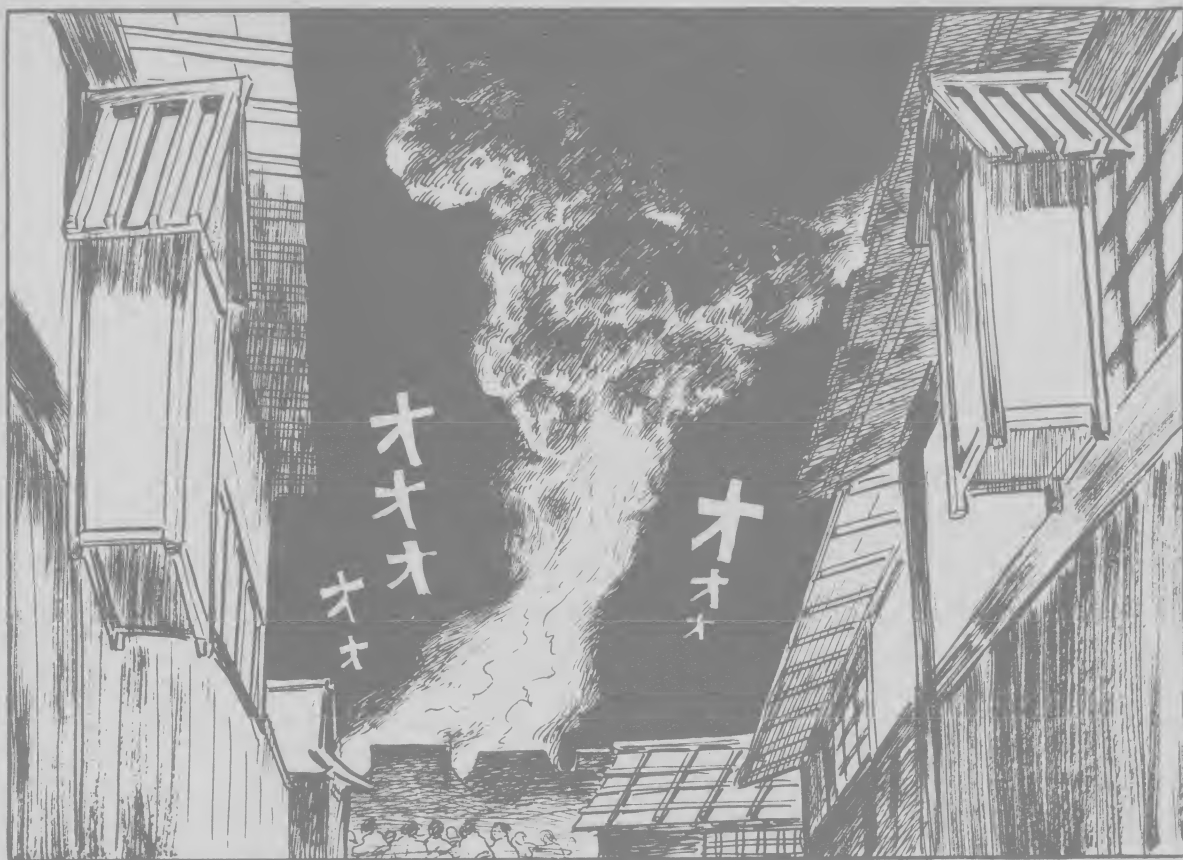
火の手は
三条の
付近ぞ

オォォ
オオオォォ

運慶さま

快慶!!
おまえも来たか……

はい…
すこしでも火の手を食いとめてさしあげたいのです……
フッ
わしはやつの彫りものがどこまで進んだか焼け落ちる前にひと目見ようと思ってな……

……

どうせ
つまるところ
やつは
龍など
彫れなかったの
かもしれん
あるいは
それがために
己で火を
はなったのかも
しれん……

でも
やはり
運慶さまも
………

……

どうした
言葉を
のむな
快慶
はい

やはり
運慶さまも
常慶の彫り
ものを気に
かけておられ
ますね……

ますます
火の手は
上ったぞ
オオ
オオ

………

ははは……

お
おまえか
火を放ったのは……？
燃えろ

燃えろ
みんな
燃えてしまえ

ドドド
ドドド

何故!!

あのひとは
誰にも
渡さない……
誰にも

こんなもの燃えてしまえばあのひとは帰ってくるんだ

艶

それほどまでにこの俺を

ハハハハハ

ゴオオオ

なんでえ やっぱり 龍なんぞ どこにも いねえじゃ ねえか……
雲しか ねえ……

だれでえ カラクリで 龍は必ず 彫(きざ)んである なんて ぬかした のは

運慶さま………
うむ やはり 雲型だけ だったのか……

ゴオオオォ

なんだか
がっかり
気を落として
いらっしゃる
ようですね
そうか
やはり
龍を彫れな
かったのか……

それが
お望み
だったのでは
ありません
か

なじる
ような
言様を
するな……

あっ……
う
運慶さま
あれを……

ゴオオォ…

バチバチ…

メラララア…

運慶さま
ンッ!!
快慶

見ましたか……

うむ

確かに………

じ常慶はやはり彫っていたのですね
うむ……

しかも見事なやつを…

艶……

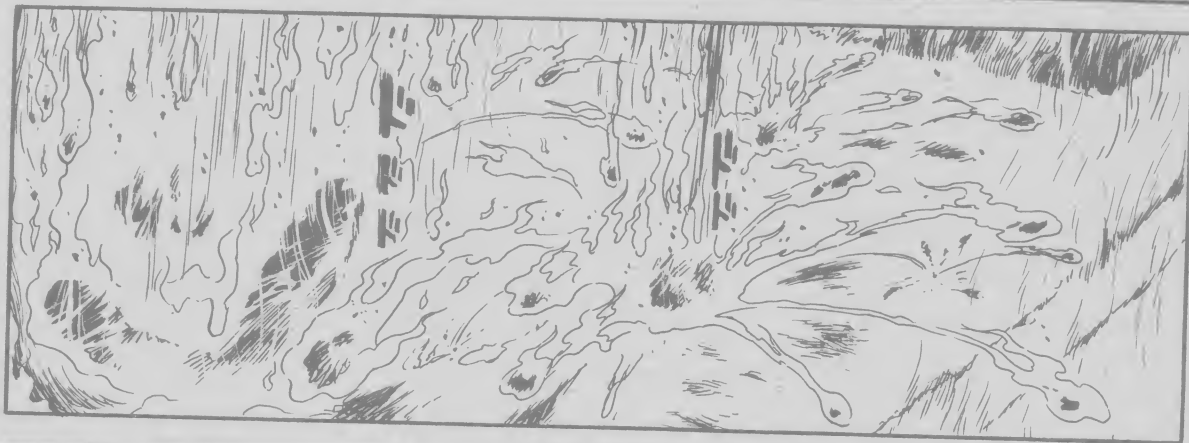
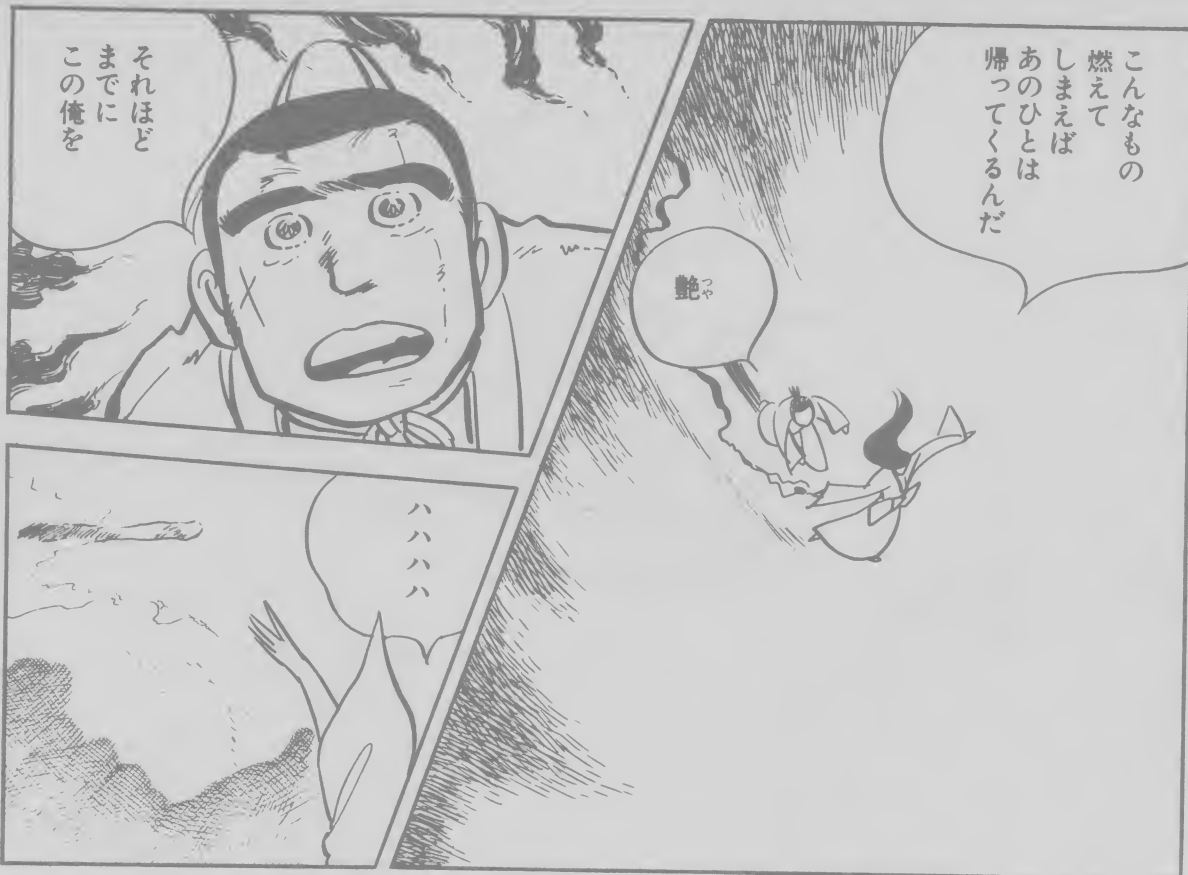
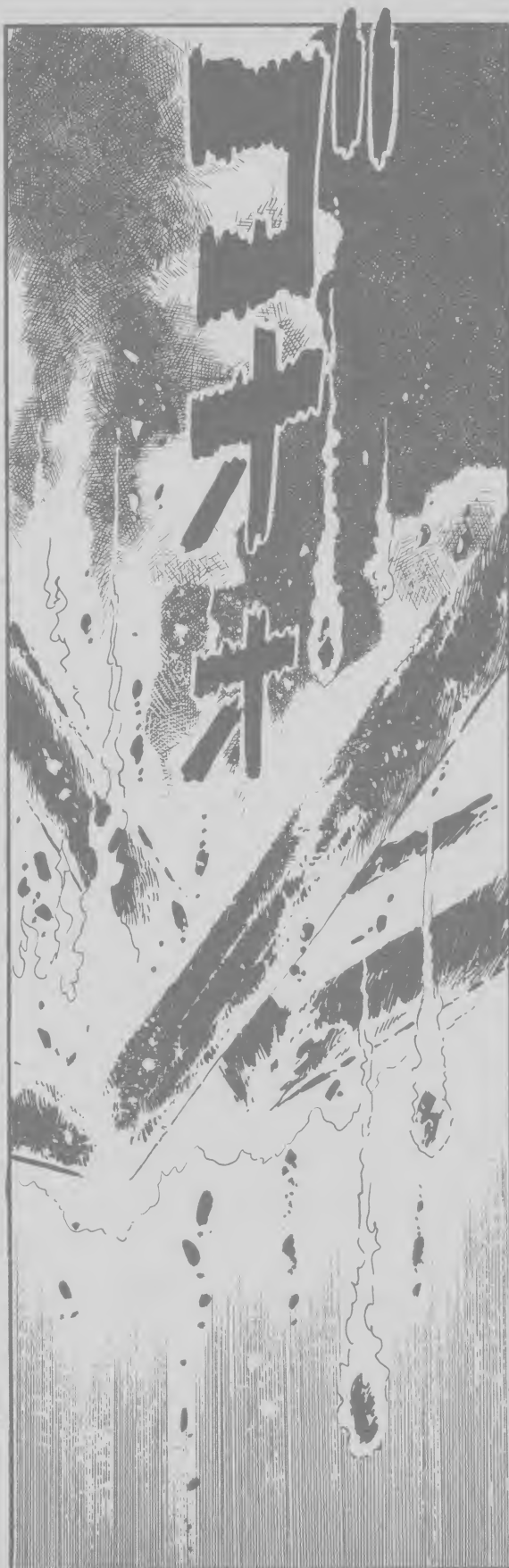
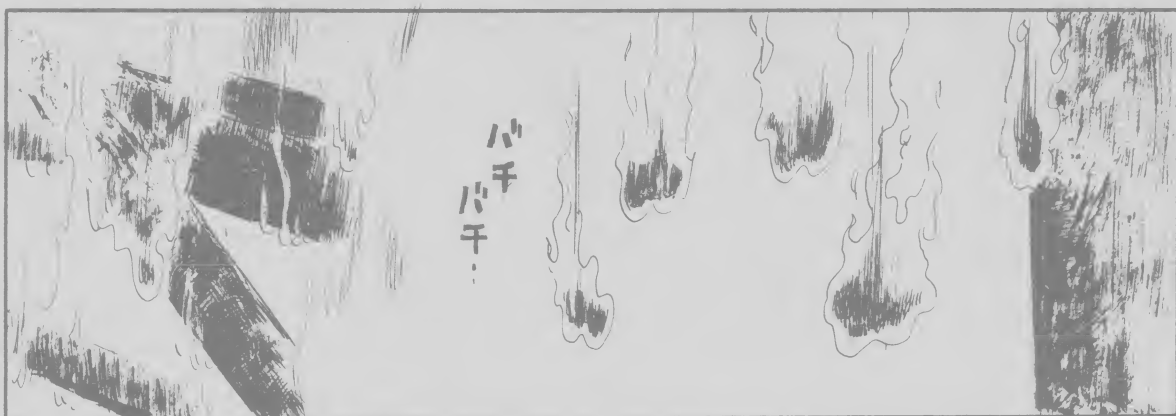
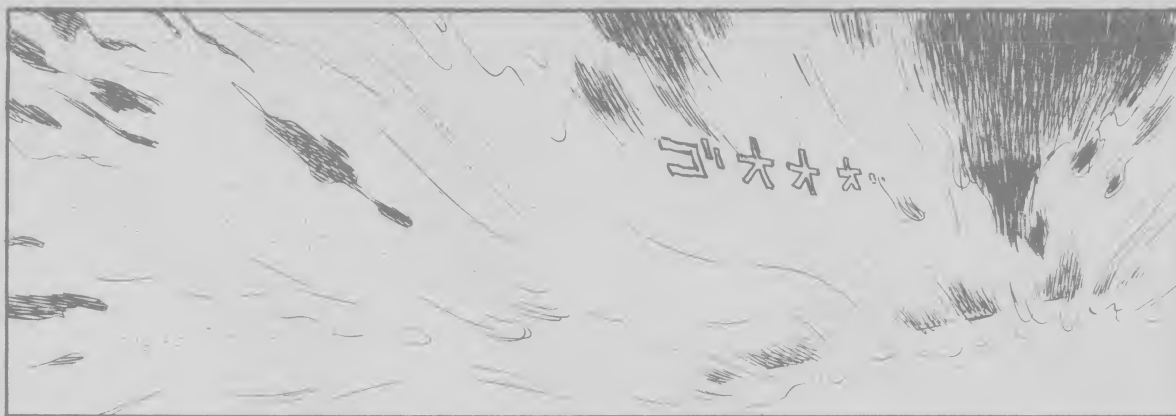
やつにあれだけのものを彫れたか

荒ぶった
想いで
あれだけの
ものは造れん

はい……
今までの
常慶の
鑿跡は
微塵もあり
ませなんだ
ゴオォ

バギ
バギ
バキ

ズズズ…

ふるるるる…

猛り狂った
龍ではない
水神として
厳とした
厳しさが
ある…
雄雄しい
ばかりのな

艶
生気に
返っておくれ

どお！！

私共の
七条仏所に
もどしてやって
下さいまし
破門を
解いてやって
下さいまし
ゴゴォ

わしも
そうしたい……

しかし
それも
今となって
は……
艶

求めて
追えば
逃げ……

拒めば
追われる

真に
ままならぬは
業火現世の
無常……
ハハハ
あの坊さんは
よく言った
ものだ

今ほど
おまえが
いとおしいと
思ったことは
ない……
今ほど
おまえの
心根を
求めている
ときはない
のに……

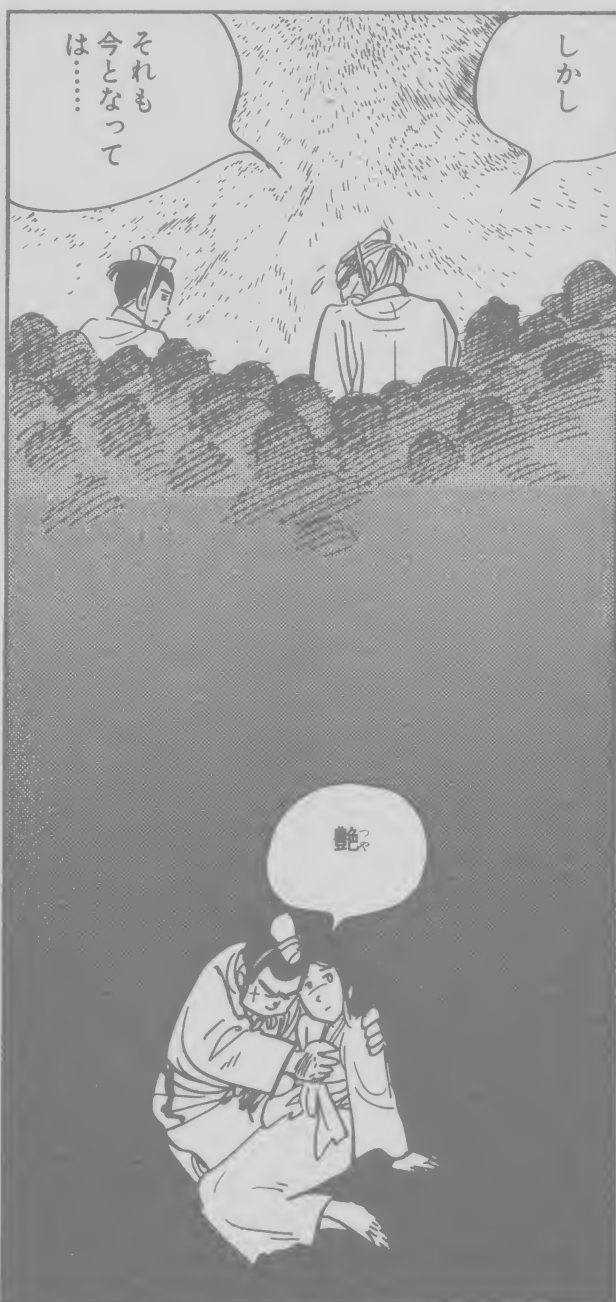
これ…
わしを
見ろ!!

ちゃんと
見てくれ
俺だ
俺を
わかって
くれ

おまえは
あまりに
ふびん
な……

そして
この俺も…

あれほどの
腕を
持ちながら
あまりに
激し過ぎた
そして
あまりに
失うものが
多過ぎた

ふびんな
やつ……

時代の巨きな
うねりに
のまれ
はじけ
なぶられ
燃え尽きる
者は多い……

龍神　完